



特集 建築家 故・永田昌民さんの自邸を訪ねて

## 緑と旅先の思い出に満ちた家



特集 建築家 故・永田昌民さんの自邸を訪ねて

## 緑と旅先の思い出に満ちた家

東京都東久留米市 | 木造一戸建て (設計: N設計室 永田昌民・永田花) | 永田邸

### 1 ストーリー

今回ご紹介するのは、建築家・故・永田昌民さんの自邸。相羽建設が土地探しから携わり、2004年に竣工しました。現在は奥様の佑子さんが、大好きな植物の手入れを楽しみながらお住まいです。個室や浴室の窓からも見え、心癒してくれる豊かな緑。植栽は、造園家の田瀬理夫さんに依頼しました。30年ほど住んでいた以前の家のお庭から、お気に入り

のヤマボウシ、そして植物の生えている地表を剥ぎとり「地面ごとお引越した感じです」と振り返る佑子さん。「田瀬さんに全てお任せしたのですが、好きな植物がたくさん入っていて」と微笑みます。旗竿敷地を活かしたアプローチからデッキがあるお庭まで、品種を数えると198種もあつ

たそう。植物の影が壁をスクリーンにして映ったり、秋には紅葉に反射した陽が入り、白い壁が一面淡いピンクに色づいたり…。日々表情を変える植物のお陰で、15年以上お住まいでも新たな発見があるという永田邸。住み心地や昌民さんのエピソードなどを伺いました。



## 2

### 大勢でも心地よく 過ごせるLDK

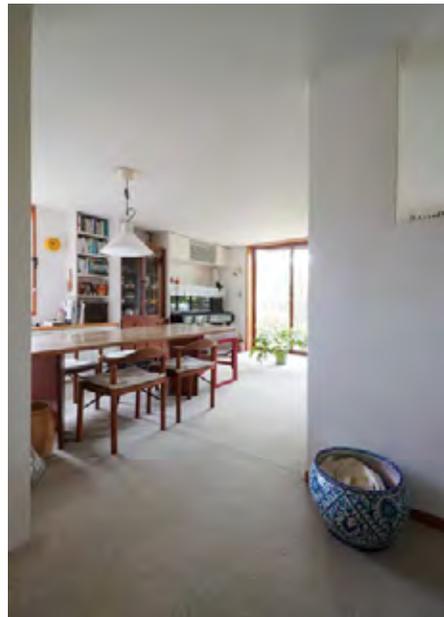
「永田は家に人を呼ぶのが好きでね」と佑子さん。玄関を上ると、大きな窓が開放的で大勢が寛げるLDKが広がります。ガラス戸を開け放つと、LDKとデッキ・お庭とがひと続きになり、より伸びやかに。大勢のときは椅子を出してもてなしていたそう。「大きなテーブルがあればいい」。昌民さんがそう仰っていたように、来客と食卓を囲んだり作業したりと、柔軟に使える2枚板のダイニングテーブルが空間に一層の広かさをもたらしています。設計に関して佑子さんに伺うと「何も聞かれないまま図面ができていて」と笑います。それでも足の不自由な佑子さんのお母様のために1階納戸をトイレに変更するなど、佑子さんへの思いやりが表れています。旅行好きで、よく旅先の骨董屋で買い物をしていたご夫妻。ソファ横の飾り棚には、買い求めた小物を年に5、6回入れ替えて並べ、季節感を取り入れています。「旅行から帰ると、やっぱり家がいいって思うんです」と佑子さん。大好きな植物に囲まれ、落ち着き、のんびりできる自宅が佑子さんの元気の源です。



玄関とLDKとを仕切るガラス戸。娘さんと一緒に模様を貼った力作です。



1.木曾三岳奥村設計所のダイニングテーブルと「はんべんチェア」は以前の家から約50年も愛用。昌民さんの恩師・吉村順三さんの「たためる椅子」の赤がアクセントに。2.視線が抜ける壁が緩く空間を仕切ります。3.テレビ正面のソファが昌民さんの定位置。4.キッチンコンロはフランス製。





3  
住まいのみどころ

エネルギーを  
分けてくれる緑



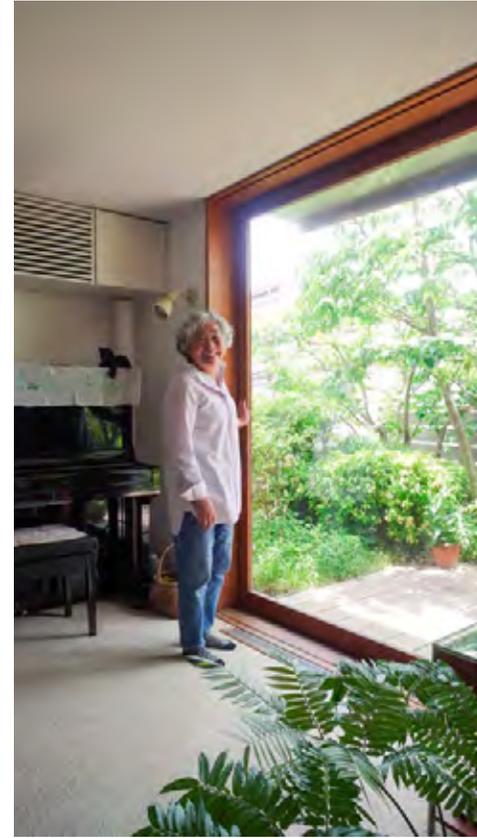
気持ちのいい時期には、デッキに椅子を出してお庭の植物を眺めるという佑子さん。生き生きとした姿から活力を貰えるそう。そして緑に包まれるようなアプローチも魅力的。永田邸見学に訪れた設計依頼者が、あえて旗竿敷地を探したというエピソードを教えてくださいました。



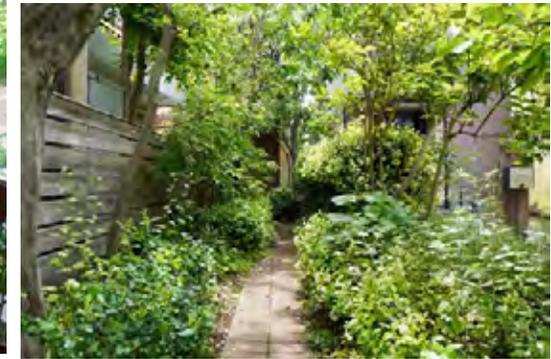
1 寝室の一角が昌民さんの書斎。2.旅先で購入したトランクやハンモックを収納に。3.階段周りにも収納を設け空間を有効活用。4.もうひとつの個室は現在、佑子さんの作業スペース。

コンパクトでも  
開放的な2階

2階は水廻りとふたつの個室。昌民さんの書斎がそのまま残っています。限られた面積でも視線が窓の外へ抜けて明るく、「狭苦しい所がないでしょ?」と佑子さん。天井裏など収納が充実し、可愛い籠などが物入れになっているのも空間をすっきり見せるポイントです。



1.窓辺に佇む佑子さん。窓を開けると心地よい風が抜けます。2.植栽をデッキと同じ高さに持ち上げることで、室内との一体感を増しています。3.アプローチは緑のトンネルのよう。



取材後記

初夏にお邪魔しましたが、風が涼を運び、窓の外の色が爽やかな永田邸。初めて訪れるのに居心地がよく、また佑子さんの植物愛溢れるお話や旅先の思い出も興味深く、つい長居してしまいました。貴重なお時間をありがとうございました! (記:ライター大川)

設計:永田昌民・永田花(N設計室) 造園:田瀬理夫(プランタゴ)  
施工:相羽建設  
撮影取材・編集:伊藤・大川・猪股  
ainohaバックナンバー <http://aibaeco.co.jp/100story/life/>





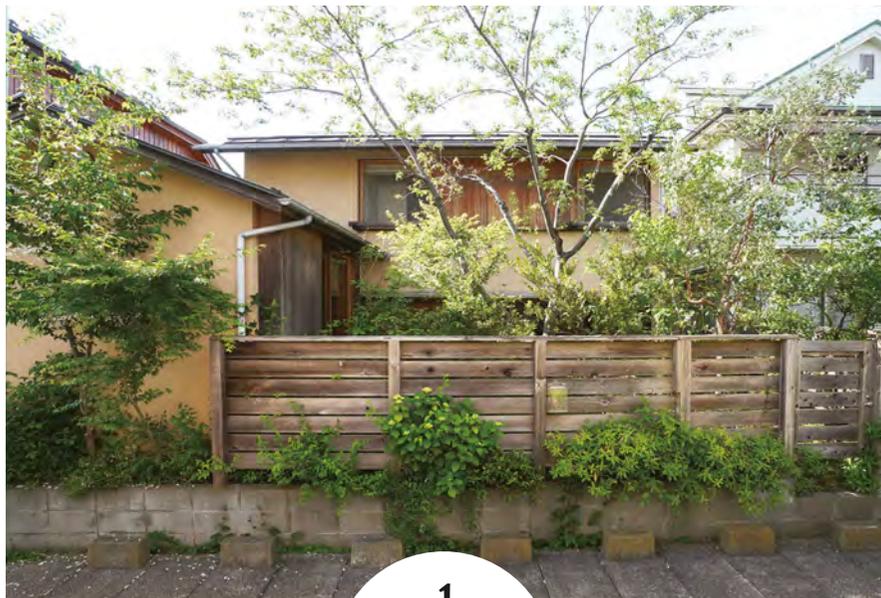
特集 その後どのように暮らしていますか？

15年の年月を経て

特集 その後どのように暮らしていますか？

# 15年の年月を経て

東京都東久留米市 | 木造一戸建て(建築家と建てる家) | 相羽邸(ご夫婦+お子様2人)



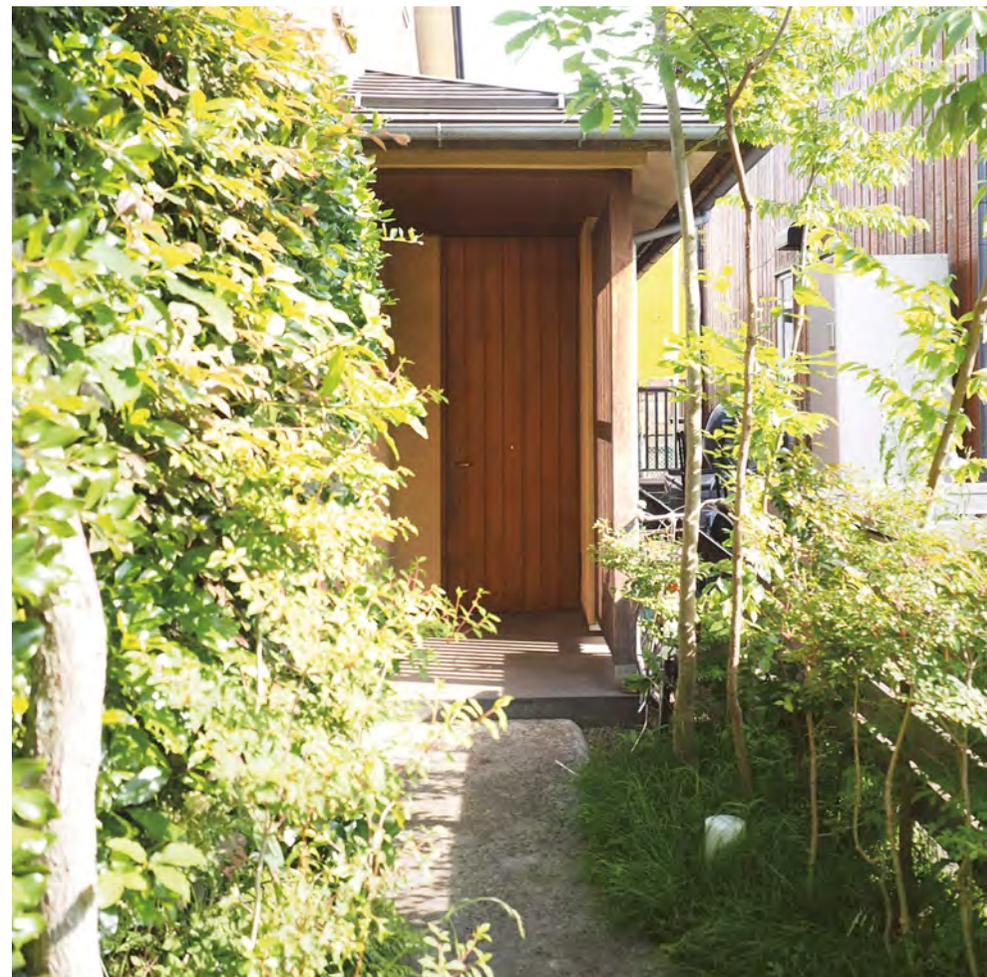
1

## ストーリー

今回紹介するのは、竣工から15年目を迎えた当社社長の相羽邸。自然素材の床は色艶を増し、大きく育った庭の木々からこぼれる日差しが家中に溢れる気持ちがいい住まいです。先日、お子さんの個室を設けるため、寝室を仕切るリフォームを行った際に、15年間家族の成長に寄り添ってきた家への思いや、現在の暮らしぶりについて伺いました。

上のお子さんが生まれたのをきっかけに家づくりを考え始めた当時の要望は、『人が集まる家』、『職場から近い』、『動きのある家』、『床座の生活』の4つでした。

「『人が集まる家にしたい』という要望通り、たくさんの友人が遊びに来てくれました。この場所、この家で子育てができて、家族との時間が過ぎて本当によかったです。ただ『職場に近い』という要望に関しては、建てた1年後に会社自体が引っ越してしまっ！」と笑って振り返る奥様。

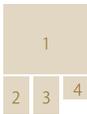




### 3 15年目のリフォーム



1.家具や建具を同じ素材で制作。統一感のある空間に2.建具の取手は収納の引手に干渉しないように彫り込まれ、握り心地もよく3.大容量の収納で片付けも進む4.入口より全体を望む



#### 緩やかに仕切る 子ども部屋

リフォームプランは小泉誠さんに依頼。完全な個室ではなく緩やかに間仕切られているので、お互いに存在を感じながらいい距離感で過ごすことができます。また上があいていることで空調も増設せずすみ、工事の負担も費用も抑えることができました。

#### 施工期間を短くし 工事の負担を軽く



「共働きのためまとまった時間を取りづらいので出来るだけ家での作業を少なくしてほしい」という要望から、あらかじめ加工場で家具やパーツを加工してから搬入。現場での作業は組立を主とすることで、工事期間を最小限にしました。

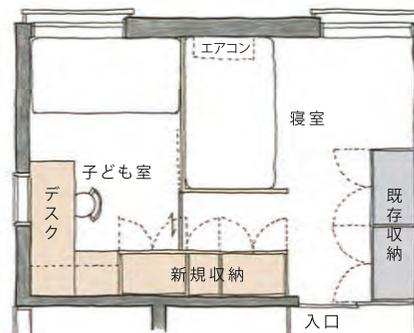


左 加工場での家具制作の様子。  
右 取り付けの様子。あらかじめ作ることで精度のいい仕上がりにもつながる。



PLAN

今回のリフォーム部分



before

「共有の収納ではなく個の空間に自分の収納を作ったことで、子どもが自発的に片付けをするようになりました」と嬉しい報告をいただきました。

#### 取材後記

「子どもと川の字で寝る暮らしが名残惜しく、広い空間を間仕切ることにも抵抗があってリフォームを延ばし延ばしにしていたんです。でもいざ完成してみると「リフォームしてよかった!」というのが素直な感想。子どもが巣立ったら隣の部屋も私がもらおうと思っています」と奥様。子どもの成長は嬉しくも名残惜しくもある…その気持ちに非常に共感しつつ、それでも「よかった!」といってもらえて、心がほっと温まりました。(広報:猪股)



設計: 永田昌民(竣工時)・小泉誠(リフォーム部分) / 施工: 相羽建設  
撮影取材・編集: 伊藤・相羽・橋詰・猪股  
ainoha/バックナンバー <http://aibaeco.co.jp/100story/life/>



100Life



工事風景を  
Youtubeに  
公開中です!

